

クリップボード・ポスター発表のタイトルA4版

野田湧太 23B41099
東京工業大学生命理工学院

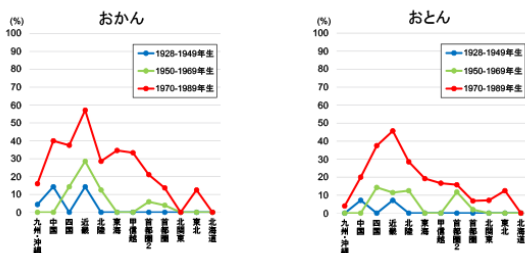
1. はじめに

関西弁の広がりについて興味を持ちました。今回私は関西弁が時代の流れに乗って関東圏にまで伝わってきているのかということについて調べました。

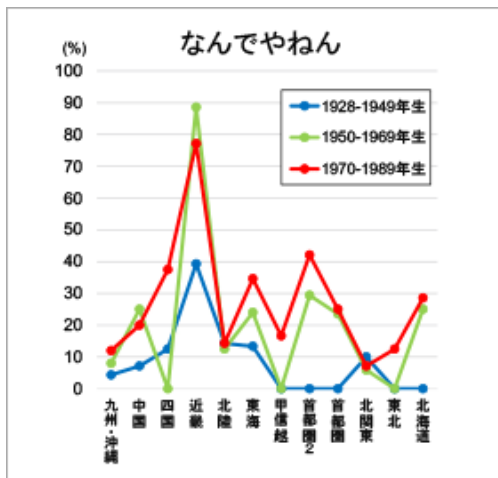
2. 方法

具体的な方法としては、「おとん」「おかん」「なんでやねん」などの関西弁を使っている人の割合を世代別で比較することにより、関西弁の広がりについて調べました。

3. 結果



右のグラフも左のグラフも近畿地方を中心に山ができており、離れるほど使用率が低くなっている。



4. 考察

上の2つのグラフからは、1970～80年代生まれの人の使用者が多く、他の世代は低いといえます。これはもともと近畿地方の一部で使用されていた「おとん」「おかん」という言葉が、近畿地方での使用が増加するとともに、周辺地域へと広がっていると考えられます。また、「なんでやねん」という言葉も同じようなグラフを得ることができたため、関西弁は近畿地方での使用から周辺地域へ拡大することが考えられます。

5. おわりに

今回は3つのグラフから関西弁が周辺の地域へと広がるのかということについて調査した。グラフからは実際に周辺地域に広がっていることが分かった。

文献: 国立国語研究所

広がる関西弁～国語研の調査データを使ってみよう～「国民の言語使用と言語意識に関する全国調査」のデータ公開